

令和8年度 優秀映画鑑賞推進事業

名作映画鑑賞会

令和8年 **9月3日** (木) 10時00分開場／10時30分上映開始

亀山市文化会館大ホール

1. キューポラのある街

上映 10時30分～(99分)

[1962年 日活]

原作 早船ちよ

脚本 今村昌平

脚本・監督 浦山桐郎



出演／吉永小百合
浜田光夫
東野英治郎 ほか

2. 晩春

上映 13時10分～(108分)

[1949年 松竹(大船)]

原作 広津和郎

脚本 野田高梧

脚本・監督 小津安二郎



出演／笠智衆
原節子
月丘夢路 ほか

チケット／**通し券** 800円(2本ともご覧になれます)

一回券 500円(いずれか1本をご覧になれます)

令和8年8月3日(月)

前売開始

プレイガイド／

亀山市文化会館、亀山エコー案内所、鈴鹿ハンター、青少年研修センター、フジヤ

主催：(公財) 亀山市地域社会振興会 (亀山市文化会館)、国立映画アーカイブ

特別協力：文化庁、(一社) 日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、

松竹(株)、東宝(株)、東映(株)、(株)KADOKAWA

お問合せ先：☎0595-82-7111 (亀山市文化会館)



キューポラのある街

石原裕次郎や小林旭などのスターを配したアクション映画が全盛だった日活に、もう一つの流れとして生まれたのがリアリズムを基調とした青春映画である。その路線を象徴するコンビが吉永小百合と浜田光夫で、この映画の他にも『愛と死をみつめて』

(1964)などで主演している。この作品は、鋳物工場が立ち並ぶ埼玉県川口市を舞台に、解雇された鋳物職人の父親を心配しながら、健気に生きようとする娘と若い工員を描いた早船ちよ原作の映画化。保守的な父親を演じる東野英治郎の好演もさることながら、娘を演じた吉永小百合はこの映画でブルーリボン賞を受賞し、本格的に女優への道を歩み出した。今村昌平監督門下の新人浦山桐郎の第1回監督作品で、今村が脚本を共同執筆した。『大人は判ってくれない』(1959)などで知られるフランスのフランスワ・トリュフォー監督もこの映画のみずみずしい感覚を見抜き、激賞したという。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

晩 春

二人で暮らす娘と父の姿を、厳正なスタイルでほのぼのとした情感のなかに描き出し、小津安二郎監督の戦後の転機となった作品。これ以降、脚本は野田高梧と組み、ヒロインには東宝所属の原節子が起用されることになる。鎌倉に住む学者・曾宮と娘・紀子の暮らしは平穏そのものだった。父にとって気がかりなのは、27歳になる娘の結婚だが、娘は自分が嫁げば父が一人になってしまうことを理由に結婚する気を見せない。窮余の策として父は娘に自身の再婚をほのめかす。父と娘の関係が軸となる映画だが、紀子が友人の服部と自転車で海岸線を走るシーンなど、紀子の生活も生き生きと描かれている。小津が絶大な信頼を寄せた叔母役の杉村春子の名演も見逃せない。「キネマ旬報」ベストテン第1位。